

CADP 運営委員会

●CADP とは？

CADP (the Course for Academic Development of Psychiatrists) は、国内・海外の若手精神科医が一同に集まり、2泊3日の合宿形式で行う研修会で、日本若手精神科医の会における最大の活動の1つです。同会は英語を公用語として、参加者による口頭発表、ポスター発表、その際の座長業務、特別講師による講演、小グループに分かれての討論など、開催期間を通して参加者が能動的にプログラムへ取り組むことができるように構成されています。特別講師として、CADPの開発者である元世界精神医学会会長の Norman Sartorius 先生をはじめ、精神医学領域において世界的に高名な先生方をお招きし、先人の知恵が詰まった講演をいただいております。これらのプログラムを通して、各参加者は単に知識を得るだけでなく、学術的・国際的な視点や技術が獲得できるように設計されており、2002年より毎年開催しています。

参加者は国内の若手精神科医にとどまらず、アジアを中心とした世界各国からの海外参加者も受け入れており、会終了後も活発な国際交流を行っており、JYPOの活動活性化に寄与しています。

●CADP 運営委員会とは？

この委員会は、文字通り CADP を運営することをその主眼としています。大会長・副大会長のほか、下記の各役職の10数名が手分けして事前準備を進めます。各役職の内容は概ねこのようなものです。

大会長・副大会長: CADP 全体を統括し、プログラムの大枠を決定する

国内係: 事前メールグループなどを介して国内参加者に必要な情報を周知する

海外係: 海外参加者の選定およびメールを介して情報を周知する

SGW 係: 小グループ議論での内容を吟味し、事前準備・当日進行を担当する

宴会係: Reception dinner の企画・準備を行う

●CADP への参加の意義

まずは1回 CADP に参加していただきたいと思っています。CADP に参加することで、精神科医としての学術的な進歩、国内・海外の若手精神科医との交流など他では得難い経験を得ることができるでしょう。

CADP の特徴として、2回目、3回目と参加回数を重ねる度に、参加者に与えられる役割が変化していくことが挙げられ、何度参加してもその度に新たな経験を得られます。2回目以降の参加時に運営委員になった場合、準備段階から「どうすればより満足度が高くなるか」「どうすればより良い企画になるか」などについて、委員間で話し合い、Sartorius 先生に直接相談してプログラムの内容を練る等することで、より深く CADP に関わることができます。

徐々に CADP が形作られていく様子を目の当たりにしながら、他の委員と一丸となって準備に取り組むことで、当日の CADP は一参加者として参加する以上の充実感を味わうことができるでしょう。それは今後あなたの糧になることは間違いありません。

ここまでの内容に「ふむ？」と思ったそこのあなた、ぜひ CADP 運営委員として一緒に仕事をしましょう！気になることやご質問などある場合も、ご連絡いただければ幸いです。

※18th CADP は、2019 年 2 月 14 日～16 日に大阪で開催します。

(運営委員長: 福島弘之、医療法人 (財団) 桜花会 醍醐病院)

文責：大矢 希

17th CADP 運営委員長

京都府立医科大学医学研究科精神機能病態学

連絡先：n-oya@koto.kpu-m.ac.jp